別紙様式6

令和5年度　　学 校 評 価 表　　（中間評価・ 最終評価 ）　　東広島市立木谷小学校

学校教育目標	「今日も学校に来てよかった」と思える学校づくり	経営理念	学校・家庭・地域が協働し，共育する学校づくりを推進し，これからの時代をたくましく生き抜くための資質・能力を身に付けた児童を育成する。 〇児童が主体的に学び合い，「わかった，できた，よかった」を実感できる学校 〇家庭・地域と協働・共育する，夢と感動あふれる学校

評価計画								自己評価					学校関係者評価（学校運営協議会による評価）		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	担当	達成値 10月	達成値 2月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
確かな学力の定着（知）	1	基礎・基本の確実な定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎・基本の確実な定着	少人数を生かした個別最適な学びの充実を図るとともに，「チャレンジタイム」の内容を精選し，計画的に実施する。	国語科・算数科における単元末テストの「知識・技能」の平均得点率80%以上の児童	80%	教務主任	国語科 68.5% 算数科 88.8%		国語科 37/54 85.6% 算数科 48/54 111%	国語科 2 算数科 4	昨年度同様，国語科は目標値に届いていない。目標値に達していない児童が固定化している。実態を分析すると，読書に取り組むことが苦手なこと，宿題の未提出や丁寧さに欠けていることが共通している。漢字や言葉の定着についての結果はすぐには表れにくい。 算数科は，目標値を上回ることができた。算数科の知識・技能の場合は，チャレンジタイム等を通して行った少人数を生かした個別最適化の取組の効果が表れやすい。また，既習の内容の積み上げができてきている。	B	・子供たちの態度から学ぶ意欲はあることがわかる。少人数の特性を生かし,個別指導もして,家庭と連携していくとよい。 ・読書は脳の働きを高めるので,本好きな子供になるような工夫が必要。読みきませ等の工夫をしてみては。 ・家庭学習が難しい子には,学習の仕方を指導し,今できていることを褒めて伸ばしてほしい。 ・文章の読解や表現する力は,積み上げ型なので、記録化して残すことも重要です。	〇ことば朝会を継続して取り組み，意見，根拠，理由を明確にして語れるようにしていく。 〇毎日の小テストや既習の漢字を使って振り返りを書くこと，また詩の暗唱など言葉にこだわった取組を毎日の積み上げを継続していく。 〇前期，後期に漢字検定を行っている。これまでと同様，100点になるまでやり切らせる。 〇読書の苦手な児童は，週末の家族読書の取り組みも難しいため，教師が読書タイム等で読み聞かせの機会を設けていく。 〇宿題の未提出の児童に対しては，事前に課題の内容を確認したり，個に応じた問題数や内容にする等，本人に自己決定させ，決めたことをやり切らせるようにしていく。少しでも本人が前向きに取り組めるようにしていく。
			◎主体的・対話的で深い学びの実現	児童が主体的に学ぶ課題発見・解決学習を充実させるとともに，言葉による見方・考え方を働かせる三角ロジックを取り入れた学習の充実を図る。	国語科単元末テスト「読むこと」の平均得点率80%以上の児童	80%	研究主任	83.30%		45/54 104.1%	4	児童が意欲的且つ主体的に取り組めるような学習活動を設定できたことで，学習内容の定着につながったと考える。 言葉朝会での取組や，授業中，自分の考えに対する根拠を引き出す教師の発問の工夫が成果につながっていると考える。 学習した知識・技能の内容が，テストの問題や日常生活の中の事象になると活用できないことがある。学びを生活にもつなげる必要があると考える。	A	・主体的で対話的な学びは,本時の学習の中でどこを取り上げたら深い学びになるのかが大切。「つまづき・揺さぶり・交流・解決」次の課題につなげていきたい。 ・全国学力の分析をして取り組むことも大切。	〇「知識及び技能」の定着があまりできていない児童の結果が「読むこと」の得点率の結果と比例してよくないため，チャレンジタイムの時間や授業時間の中で，基礎・基本の問題に取り組む。 〇学習した内容を日常生活の中や課題の中に意識して落とし込む。（日記に本日学習した言葉を必ず使用して書く，問題の内容を学級でのことに置き換える等）
豊かな心の育成（徳）	2	心豊かな人間性を培う	◎自律心の醸成	「き・だ・に・じ・ま・ん」の指導を継続して行うとともに，「に・・・にこにこ笑顔であいさつ」の徹底を図る。	アンケートの肯定的評価	90%	生徒指導担当	児童 92.7% 保護者 92.6%		児童 103% 保護者 115.8%	4	児童会が月に1度挨拶運動を行うことで，自分から挨拶をする児童が増え，挨拶をする習慣を学校全体で身に付けさせることができた。	A	・あいさつは四月当初よりよくできている。 ・自ら進んですることは気持ちがよいという習慣化にしてほしい。 ・さらに高い目標を設定して困難に立ち向かう力を養いたい。	〇相手の目を見て，大きな声であいさつができるように児童会役員中心に進めていく。後期は，児童会役員による評価を全校集会等でしていく。そのことにより全体に意識がいきわたると考える。また，表彰者は掲示板に貼っていく。
			体験活動の充実	地域学習（ふるさと木谷）を通して，地域貢献や地域の良さを伝える取組を推進する。	アンケートの肯定的評価	90%	生活部	96%		107%	4	学年ごとに地域の方々と共に木谷ならではの体験活動を行い，地域の良さを感じることができた。コミュニティスクールだより「木谷の風」を地域学習を実施する毎に発行し，地域の良さを発信している。	A	・体験活動の積み上げがすばらしい。 ・地域が全力をあげて支援・協力していく。 ・学校外で様々な体験ができている。	〇学年ごとに地域学習の活動を行い，教室内掲示等を行っている。引き続き，「木谷の風」や学校だより，学級だより等でタイムリーに発信していく。
健やかな体の育成（体）	3	生活リズムを整え，健康な体つくりを進める	体力の向上	外遊びの奨励，体育科の授業・体育的行事を通して体力づくりに取り組む。	長座体前屈の向上率	105%	体育主任	12月に計測予定				6月に行った体力テストの長座体前屈の結果は，ほとんどの学年で全国平均値を下回っている。 柔軟性の向上にむけて取り組む必要がある。	B	・長座体前屈に焦点をあて,柔軟性を高める意義はある。この値が低いのは日常的な行動の課題があるのかも。さらに,全体的な体力向上を目指すことを体育科の授業でも取り組んでほしい。 ・デジタル化の時代子供たちに筋力や瞬発力をつけてほしい。	〇12月に再テストを行う。長座体前屈の記録が前回より伸びるよう取り組む。子どもに具体的な目標をもたせるため，前回の結果が分かるカードを配布する。 〇後期から，毎週火曜日，お昼休憩の最初の5分に，元気タイムを設ける。元気タイムでは，音楽に合わせて，柔軟運動を行い，柔軟性の向上を図る。
			◎健康・安全な生活習慣や態度の確立	生活振り返り週間を設定し，基本的な生活習慣の定着を図る。	生活振り返りアンケートによる「睡眠時間の確保」の肯定的評価	前期 80% 後期 90%	保健主事	87.1%		108.9%	4	生活ふりかえり期間中は，毎日生活ふりかえりカードを提出させ，担任が実態を確認し，評価を行った。その結果，目標達成に向けて一人一人が意欲的に行動し，目標を達成することができた。後期は，目標設定を90%にする。	A	・一人一人の子供たちの生活習慣をみているのはすばらしい。 ・睡眠時間の確保・3食きちんと食べるなど基本的生活習慣をつけるとよい	〇児童自ら進んで睡眠時間の確保に努めることができるように，睡眠の大切さについての保健指導を行う。 〇学級懇談会の際に，生活ふりかえりカードの結果の割合を示した資料を配布し，改善点について話し合う機会を設ける。
信頼される学校	4	保護者や地域とともにある学校づくりをめざす	◎コミュニティ・スクールの推進	地域・保護者と連携した教育活動を進めるとともに，積極的な情報発信を行う。	保護者アンケートによる「学校は教育方針・子供たちの様子等を分かりやすく伝えている」の肯定的評価	90%	教頭	96%		106.6%	4	コロナ対策も今年度途中から徐々に緩和され，以前よりもっと学校と保護者と地域と交流できるようになり,目標値を達成することができた。肯定的評価の中でも「よくあてはまる」と回答した保護者が70%を超えていた。	A	・学校だよりなど素晴らしい。地域に開かれた学校・信頼される学校にしようとされているのがよく伝わってくる。	〇学校だより等で,学校の取組を引き続き分かりやすくお知らせしたり，できる限りタイミングよく,学年だよりやHP等，活用したりして積極的に,情報を発信していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。
重点目標は◎で表示する。

■自己評価
4…目標を上回って達成　　3…目標どおりに達成
2…目標をやや下回って達成　　1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）
A…とても適切である　　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　　D…全く適切でない